

◆新型コロナウイルス感染症に対する医学会の提言

人類の歴史は「感染症との戦い」と言っても、過言ではありません。

漢方の原典である『傷寒雑病論(西暦 196 年頃・張仲景 著)』の序文に、著者の一族 200 余名が今の腸チフスと推定される“傷寒”にかかり、その 3 分の 2 が亡くなったとあります。著者はこの経験をもとに、感染症の治療法である『傷寒雑病論』を確立し、感染症に表れる様々な病態やその適応処方を記しており、現代にも十分に適用できるため、多くの臨床医に活用されています。

さて、江戸時代に梅毒、天然痘、結核、マラリアやコレラ等の感染症が流行した際は、原因不明の疫病として、漢方治療を行いました。現代のように「感染症には、抗生物質」と安易に使える時代ではなかったからです。医師にとっても危険な感染症を詳細に観察して、最適な効能・効果を引き出せる薬剤を選んで治療した時代でした。

未知なる病気には、今でも、なす術もないのが現状です。幸いにも漢方は、過去の治療文献から、非常に高い治療効果をあげたコレラの流行事例を知ることが出来ます。コレラの後も、100 年前のスペイン風邪然り、エボラ出血熱、HIV、プリオン病などの新しい感染症が世界を襲いました。

現在、恐れられている新型コロナウイルス感染症は、未だ日本では、他国で見られるような広範囲で深刻な感染拡大には至っていませんが、交通手段の発達が感染拡大を助長しており、当然いつパンデミックになってもおかしくない状況です。現在の世界的伝播を考えても、重大な局面を迎えていることは確かです。

さて、漢方には、“治療”と、常日頃から病気にならないための“養生法”とがあります。

漢方治療が新型コロナウイルス感染症の全過程に有効に対応できることは、コレラの流行等の史実から分かります。感染症の基本的な診断法は、まず、生体反応を的確に捉え、病邪を排除して免疫能や感染防御能を高める薬剤の適正な選択に懸かっており、当会では、漢方家庭医講習会のみならず、独自の動画コンテンツの作成も行い、治療に役立つ情報を提供しています。

更に病気に罹らないために、養生法の活用等を勧めています。「温故知新」という言葉があるように2000年の漢方治療の歴史は、必ず国民の健康を死守し、この難局を打開していくと確信しています。

常日頃から、国民の健康と安全に配慮されている政治家各位は、日本の伝統医学である漢方がいかに国民の健康に寄与してきたかという歴史的な事実を熟知されていることでしょう。

日本の伝統ある文化の一つである漢方の考え方が国民の健康維持に寄与して参りました。今回の新型コロナウイルス感染のようなグローバルな拡がりに関しても、基本は健康維持で、今まで国民の健康を支えてきた養生法の徹底が感染予防に繋がっております。

感染症に罹らず健康な身体を維持し、未病を防ぐ漢方薬は、豊富な臨床知見を持っており、今のような未曾有な感染状況には漢方の有効活用が俟たれています。新型コロナウイルスに罹りづらくする体力、感染を跳ね返す気力、十分な免疫力の増強と、さらに感染後の後遺症治療には最適です。これからの医療を変えて行く上で必要不可欠なものであり、漢方は国民の宝でもあります。

それには、世界に冠たる国民の誰もが受診できる「国民皆健康保険制度」の維持と「医療用漢方製剤の医療保険からの給付除外の流れ」を未然に防ぐ必要があります。

当会は、漢方の有用性を多くの国民に広め、漢方の価値を認識して頂くための教宣活動がこれからも重要な使命と考えています。

全国民の皆様のご協力、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

日本臨床漢方医会 理事長 石川友章